

限界集落に置き薬、その実態 成否の要因は軽治療だけでなく

発行：日本置き薬協会 事務局

世界遺産の富岡製糸場から葱の下仁田町を過ぎ長野県佐久市に抜ける手前に群馬県南牧村がある。平成 27 年の国勢調査では 953 世帯、総人口 1,979 人。65 歳以上が半数を超える所謂「限界集落」。「日本で最も高齢化率が高い」、「最も消滅の可能性が高い」自治体と言われている。この地で置き薬に取り組んでいるのは、当協会の副代表で高崎市に拠点を持つ(株)群広薬品代表の又市久憲氏である。

風邪薬、胃腸薬、外傷薬など置き薬の定番は配置されているものの、売上の 80%は、六神丸、感応丸などの五疳薬（効能が動悸、息切、気付の循環器の安定をもたらす生薬製剤）と熊胆円（効能が消化不良、飲み過ぎ、便秘の「熊の胆(イ)」と言われる消化器の安定をもたらす生薬製剤）とのこと。配置薬のなかでもこれらは相対的に高額な医薬品のため、同社は経営的にも安定しており、配置業界に共通する縮小傾向とは無縁のよう。近年、近隣の上野村（日航機墜落の地）や同県北部の片品村の懸場帳を購入している。ただ、一朝一夕に現状があるわけではなく、半世紀近くに及ぶ同氏の廻商と健康から社会問題、政治経済までに及ぶ情報提供があつてのことだ。



廣貫堂「六神丸 S」360 粒入 13,530 円 「感応丸」80 個入 38,500 円 「熊胆円 S」88 包 6,600 円

置き薬、配置薬は大家族主義的社会構造や大家族の経営理念がある中で存在する、との筆者の分析とは異なり、極めてパーソナルな利用である。また、健康保険の中心的存在である高齢者に金銭的負担がありながらも支持されているのも重要な点である。

軽治療の風邪薬、胃腸薬、外傷薬から、生活習慣病の予防に関わる医薬品までを提供するセルフメディケーションの近未来形が既に実現されているとも言える。

ドラッグストア、コンビニが出店出来ない地域での置き薬、配置薬の展開。いわば人口密度階層に応じた業務展開構想があるのは承知のこととして、今後の医療の高度化、超高額化に併せて大変貌する健康保険制度に対して、全国民のセルフメディケーション意識が生活習慣病の予防領域にまで拡大するよう、ドラッグストア業界、ヘルスケア業界、そして置き薬、配置薬業界が今後とも努力されん事を期待する。

本件に関するお問合せ先 日本置き薬協会 事務局

〒332-0034 埼玉県川口市並木 2-30-6 内外救急薬品内
Tel 080-5514-7511 (有馬) fax 048-251-9657

日 置 協